Nagoya University Library

古今和歌集

上

名古屋大学附属図書館
W011·1351
KD
2－1

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
1／81

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
2 / 81

Nagoya University Library

911.1351

60188

60188

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
3 / 81

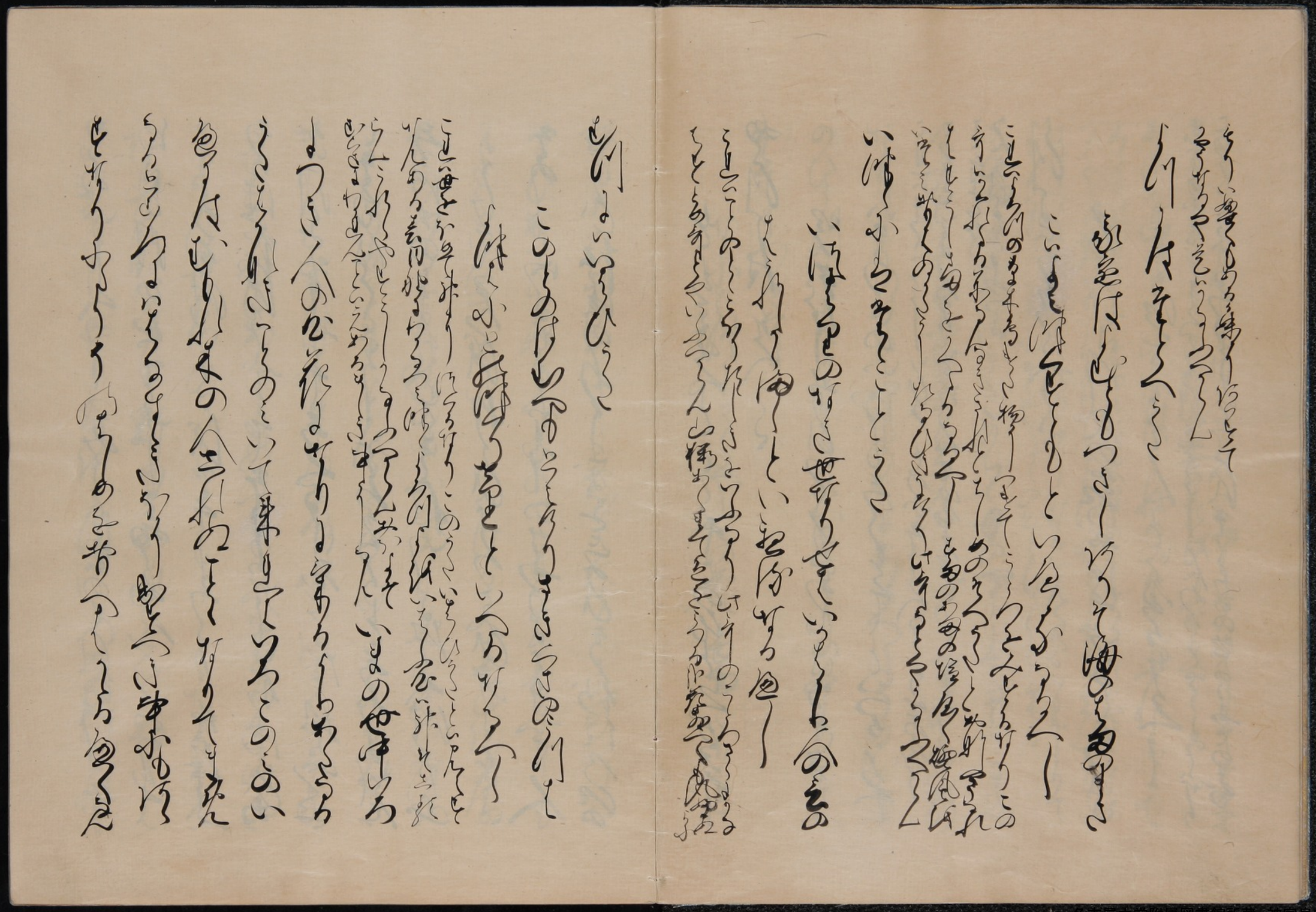
Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
100601888
4 / 81

Nagoya University Library

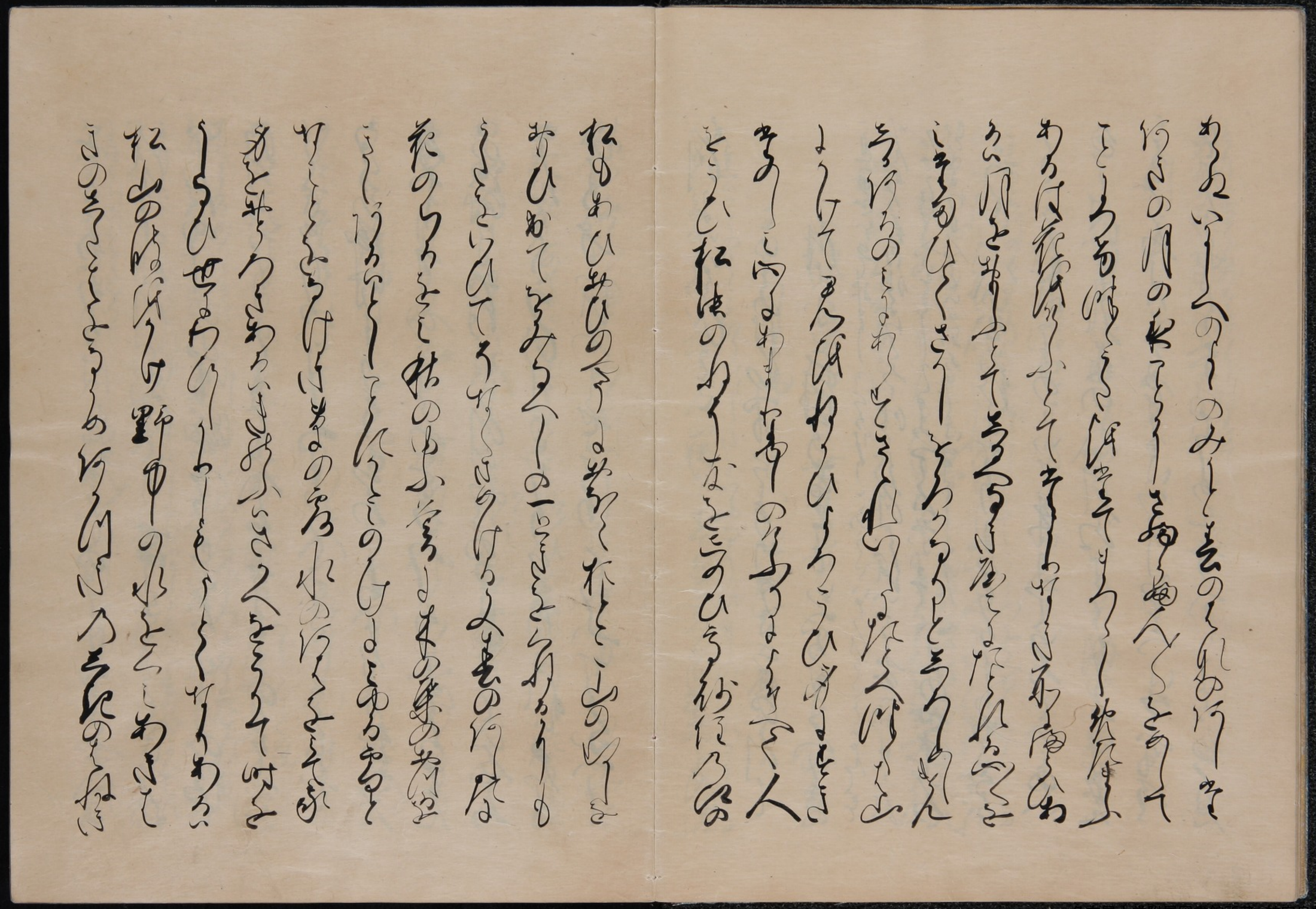
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
100601885
5 / 81

Nagoya University Library



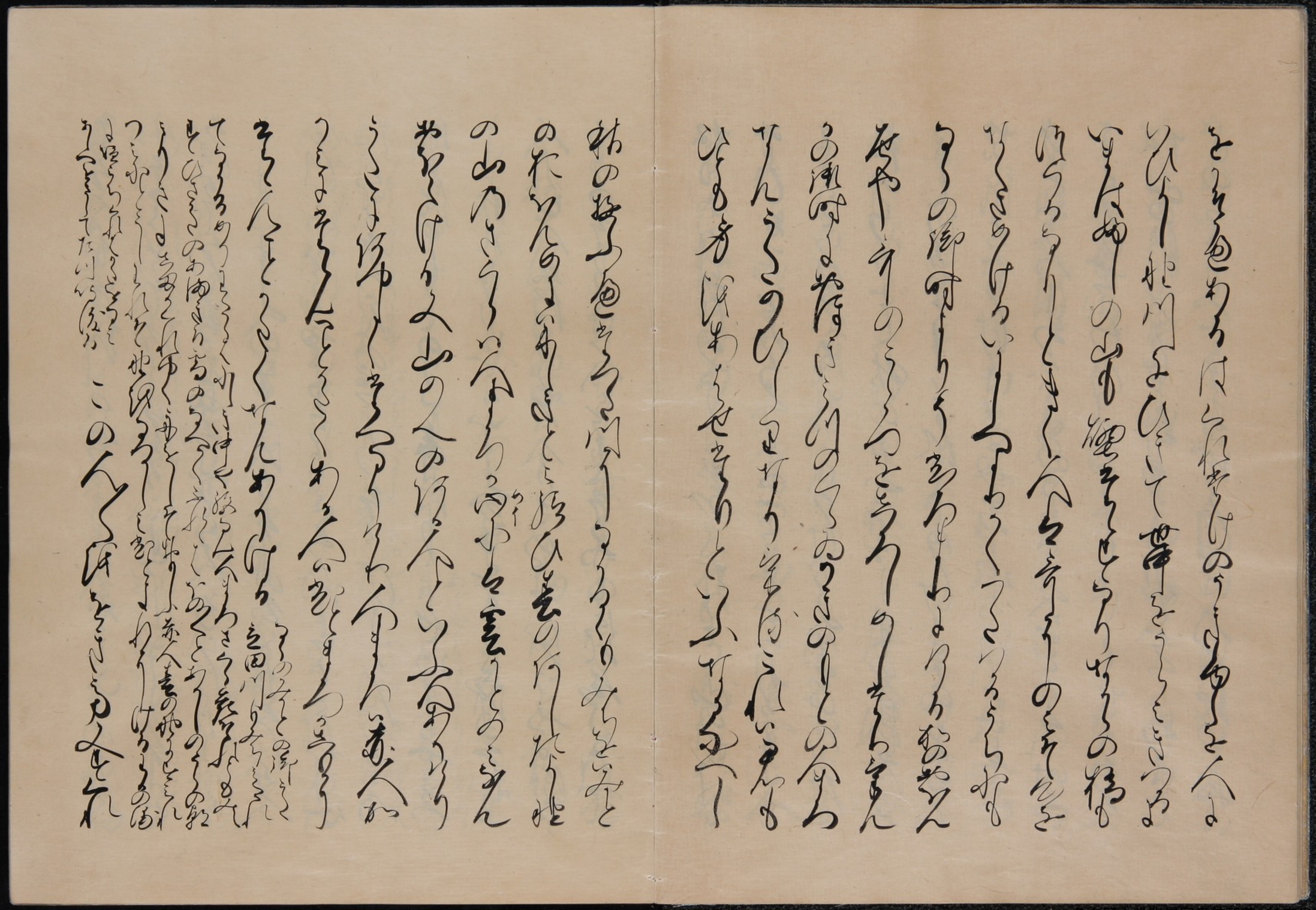
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
100601888
6 / 81

Nagoya University Library



名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
100601888
7 / 81

Nagoya University Library



名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
100601888
8 / 81

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
9 / 81

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
100601888
10 / 81

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
11 / 81

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
『古今和歌集』
100601888
12 / 81

Nagoya University Library

古今和歌集巻第一

春歌上

はるたつ日よめる　在原ありすけ朝臣

年の内に春はきにけりひとつとや人はいふらん　こそしらめ

紀貫之

袖ひちてむすびし水のこほれるを春立けふの風やとけらん

題しらず　よみ人しらず

春霞たてるやいつこ白雪のふりしかまとに花はまがへて

二條の后の春宮のときの御屏風

雪の下に春はきにけりうぐひすの声だにまだしきこほりの内に

そいとうて　読人しらず

梅が枝にうぐひすなきて春たちぬとかくれる雪のしたにこほれる

雪のまにうぐひすなくなり

素性法師

春たちけふやみよしの山べは雪まをわけてさくらさくらん

題しらず　よみ人しらず

ゆき消えてはるかすみたつ春の日の花とみまがふ白雪かな

わが人のいとしきものとおもひつるものはかりなきものかな

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
100601888
13 / 81

Nagoya University Library

二条のきさきのとう宮のみやす所ときこえける時
正月三日おまへにめしておほせことあるあひたに
日はてりなから雪のかしらにふりかかりけるを
よませ給ひける　文屋やすひて

春の日のひかりにあたる我なれとかしらの雪となるそわひしき

雪のふりけるをよめる　きのつらゆき

霞たちこのめもはるの雪ふれは花なきさとも花そちりける

春のはしめによめる　ふちはらのことなほ

春やとき花やおそきとききわかむ鶯たにもなかすもあるかな

春のはしめのうた　みふのたたみね

春きぬと人はいへとも鶯のなかぬかきりはあらしとそ思ふ

寛平御時きさいの宮の哥合のうた　源まさすみ

谷風にとくる氷のひまことにうちいつる波や春のはつ花

きのとものり

花の香を風のたよりにたくへてそ鶯さそふしるへにはやる

大江千里

鶯の谷よりいつる声なくは春くることをたれかしらまし

在原棟梁　業平朝臣男

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
14/81

Nagoya University Library

春たてと花もにほはぬ山里はものうかるねに鶯そなく

題しらす　読人しらす

野へちかく家ゐしせれは鶯のなくなるこゑはあさなあさなきく

春日野はけふはなやきそわか草のつまもこもれり我もこもれり

春日野のとふひの野もりいてゝみよ今いくかありてわかなつみてん

み山には松の雪たにきえなくに都は野へのわかなつみけり

梓弓をしてはるさめけふふりぬあすさへふらはわかなつみてん

仁和のみかとみこにおましましける時に人にわかなたまひける御うた

君かため春の野にいてゝわかなつむわか衣手に雪はふりつゝ

哥たてまつれとおほせられし時よみてたてまつれる　つらゆき

かすかのゝわかなつみにやしろたへの袖ふりはへて人のゆくらん

題しらす　在原行平朝臣

春のきるかすみの衣ぬきをうすみ山風にこそみたるへらなれ

寛平御時きさいの宮の哥合によめる　源むねゆきの朝臣

ときはなる松のみとりも春くれは今ひとしほの色まさりけり

哥たてまつれとおほせられし時によみてたてまつれる　つらゆき

名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060198
15/81

わかせこか衣はるさめふることに野への緑そ色まさりける
青柳の糸よりかくる春しもそみたれて花のほころひにける
西大寺のほとりの柳をよめる
僧正遍昭
あさ緑いとよりかけて白露を玉にもぬける春の柳か
題しらす　よみ人しらす
百ちとりさへつる春は物ことにあらたまれとも我そふりゆく
をちこちのたつきもしらぬ山中におほつかなくもよふこ鳥かな
雁のこゑをきゝてこしへまかりける人を思ひてよめる
凡河内躬恒
春くれは雁かへるなり白雲の道ゆきふりにことやつてまし
帰る雁をよめる　伊勢
春霞たつを見捨てゆく雁は花なき里にすみやならへる
題しらす　よみ人しらす
おりつれは袖こそにほへ梅花ありとやこゝに鶯のなく
色よりも香こそあはれと思ほゆれたか袖ふれし宿の梅そも
宿ちかく梅の花うへしあちきなくまつ人の香にあやまたれけり
梅花たちよるはかりありしより人のとかむる香にそしみぬる
梅の花をゝりてよめる
東三条の左のおほいまうちきみ

Nagoya University Library

雪のかさなりてゆきんとかをるとて

素性法師

春のきたるとみ梅花のかをりてゆきのはなをおりてしるべかりけり

ゆきのはなとまがへんとおもへばかをるらんとおもひてとりてしるべかりけり

梅花のかをりはいとうらめしかりけるかをるとてゆきのはなをとりてしるべかりけり

梅花

月夜のうめのはなをみてよめる

ゆきのはなとまがへんとおもへばかをるらんとおもひてとりてしるべかりけり

ゆきのはなとまがへんとおもへばかをるらんとおもひてとりてしるべかりけり

ゆきのはなとまがへんとおもへばかをるらんとおもひてとりてしるべかりけり

ゆきのはなとまがへんとおもへばかをるらんとおもひてとりてしるべかりけり

ゆきのはなとまがへんとおもへばかをるらんとおもひてとりてしるべかりけり

名古屋大学附属図書館所蔵「神宮皇学館文庫」「古今和歌集」
100601888
17 / 81

人はいさ心もしらす古郷は花そむかしの香ににほひける

水のほとりに梅花さけりけるをよめる

伊勢

春ことになかるゝ河を花とみておられぬ水に袖やぬれなん

年をへて花のかゝみとなる水はちりかゝるをやくもるといふらん

家にありける梅の花のちりけるをよめる

貫之

くるとあくとめかれぬものを梅花いつの人まにうつろひぬらん

寛平御時きさいの宮の哥合のうた

読人しらす

梅か香を袖にうつしてとゝめては春はすくともかたみならまし

素性法師

ちるとみてあるへき物を梅花うたてにほひの袖にとまれる

題しらす　よみ人しらす

散ぬとも香をたにのこせ梅花恋しき時の思ひ出にせん

人の家にうへたりける桜の花さきはしめたりけるをみてよめる

つらゆき

今年より春しりそむる桜花ちるといふ事はならはさらなん

題しらす　読人しらす

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇學館文庫
「古今和歌集」
10060198

Nagoya University Library

山たかみ人もすさめぬ桜花いたくなわびそ我見はやさん
又は　さとゝほみ人もすさめぬ山さくら
山桜わか見にくれば春霞峰にも尾にもたちかくしつゝ
そめとののきさいの宮のおまへに花かめに桜の
花をさゝせたまへるを見てよめる
さきのおほきおほいまうちきみ
年ふればよはひは老いぬしかはあれど花をし見れば物思ひもなし
なぎさの院にてさくらを見てよめる
在原業平朝臣
世中にたえてさくらのなかりせば春の心はのどけからまし

題しらず　よみ人しらず
石ばしる滝なくもがな桜花たをりてもこむ見ぬ人のため
山のさくらを見てよめる
素性法師
見てのみや人にかたらむさくら花手ことにをりて家つとにせん
花さかりに京を見やりてよめる
見わたせば柳さくらをこきまぜて都ぞ春の錦なりける
さくらの花のもとにて年のおいぬることをな
けきてよめる
きのとものり
色も香もおなし昔にさくらめど年ふる人ぞあらたまりける

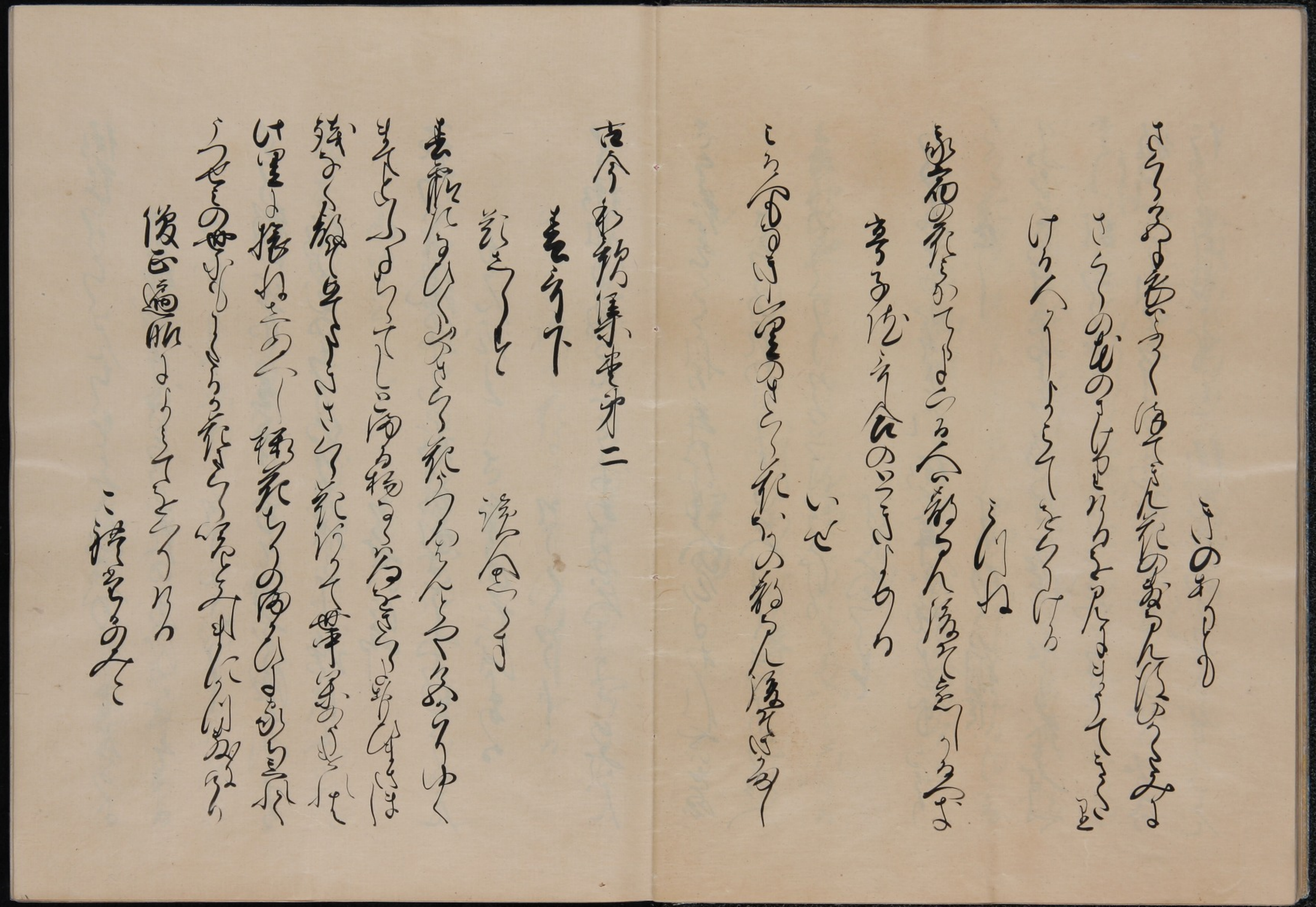
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
19 / 81

おれるさくらをよめる
つらゆき
たれしかもとめておりつる春霞たちかくすらん山のさくらを
歌たてまつれとおほせられし時によみてたてまつれる
さくら花さきにけらしなあしひきの山のかひよりみゆるしら雲
寛平御時きさいの宮の歌合の歌
とものり
みよしのゝ山へにさけるさくら花雪かとのみそあやまたれける
やよひにうるふ月のありける年よみける
伊勢

さくら花春くはゝれる年たにも人の心にあかれやはせぬ
さくらの花のさかりにひさしくとはさりける人の
きたりける時によみける
よみ人しらす
あたなりと名にこそたてれさくら花年にまれなる人もまちけり
返し
なりひらの朝臣
けふこすはあすは雪とそふりなましきえすはありとも花とみましや
題しらす
よみ人しらす
ちりぬれはこふれとしるしなきものをけふこそさくらおらはおりてめ
おりとらはおしけにもあるかさくら花いさやとかりてちるまては見ん

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵：神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
20 / 81

Nagoya University Library



春歌下

詠人しらず

春霞たなびくやまとをとめらが袖ふるかぐ山にかかるらし

春霞たつたの山のさくら花うつしをしまはをりてかざしつ

春霞かすみてとまれ桜花ちるまがひにはいでまし

桜花ちるまがひにはいでましを春霞たつ山にかくれてはいでまし

名古屋大学附属図書館所蔵「神宮皇学館文庫」
「古今和歌集」
100601888
21／81

Nagoya University Library

梅花をりてさしてをる人のいとしきまでにかほるなり

春雨にぬれてさくらの花のあかいろをそよ
ぬらす　そきくらし

さくら散花おいまさるとて詠てよまる

梅の花のちりぬるを詠ける　そせい法師

春風のやわらかに吹るを折てらん
ゆとんぬしとてさくらの花をあ
さ梅ぬもあるとんいさわるあるとんいあるようにあるとん

やひとをりけるかのまきてをるとて
のちよ詠て有さしけるを　ゆきを

一ゆみ　やらるとて花ふかくちらんん
山のさくらとてよまれる
吉雪のかなとんさくらの花をあ
つらてとてひらるとてよまれ
わすれてとてのこゆるのひよ
ゆきの梅のあるるをそよまる
梅花のあるるの歌

たれこめて春のゆくへもしらぬまに待し桜もうつろひにけり

東宮雅院にて桜の花のみかは水にちりて
なかれけるを見てよめる
すかののたかよ
枝よりもあたにちりにし花なれはおちても水のあわとこそなれ
桜の花のちりけるをよめる
つらゆき
ことならはさかすやはあらぬ桜花みる我さへにしつ心なし
桜のことくとく散ものはなしと人のいひけれはよめる
桜花とく散ぬともおもほえす人の心そ風もふきあへぬ

さくらの花のちるをよめる
きのとものり
久方のひかりのとけき春の日にしつ心なく花のちるらん
春宮のたちはきの陣にてさくらの花のちる
をよめる
藤原よしかせ
春風は花のあたりをよきてふけ心つからやうつろふとみん
さくらのちるをよめる
凡河内みつね
雪とのみふるたにあるをさくら花いかにちれとか風のふくらん

つらゆき
山たかみ見つゝわかこし桜花風は心にまかすへらなり
題しらす　大伴くろぬし
春雨のふるはなみたか桜花ちるをおしまぬ人しなけれは
亭子院歌合哥　つらゆき
桜花ちりぬる風のなこりには水なき空に浪そたちける
ならのみかとの御哥
ふるさととなりにしならのみやこにも色はかはらす花はさきけり
春の哥とてよめる
よしみねのむねさた
花の色はかすみにこめて見せすともかをたにぬすめ春の山風
寛平御時きさいの宮の哥合の哥
素性法師
花の木も今はほりうゑし春たてはうつろふ色に人ならひけり
題しらす
読人しらす
春の色のいたりいたらぬ里はあらしさけるさかさる花のみゆらん
春のうたとてよめる
つらゆき
三わ山をしかもかくすか春霞人にしられぬ花やさくらん

うりむ院のみこのもとに花見にきた山の
ほとりにまかれりける時によめる
そせい
いさけふは春の山へにましりなむくれなはなけの花のかけかは
いつまてかのへに心のあくかれむ花しちらすは千世もへぬへし
題しらす　よみ人しらす
春ことに花のさかりはありなめとあひ見む事はいのちなりけり
花のことよのつねならはすくしてし昔は又もかへりきなまし
吹風にあつらへつくる物ならはこのひともとはよきよといはまし
まつ人もこぬものゆゑに鶯のなきつる花をおりてけるかな
寛平御時きさいの宮の歌合のうた
藤原おきかせ
咲花はちくさなからにあたなれとたれかは春をうらみはてたる
春かすみ色のちくさに見えつるはたなひく山の花のかけかも
在原元方
霞たつ春の山へはとほけれと吹くる風は花のかそする
うつろへる花を見てよめる
みつね
花見れは心さへにそうつりける色にはいてし人もこそしれ

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060198
25/81

題しらず　よみ人しらず

鶯のなく野辺ごとにきてみればうつろふ花に風ぞふきける

ふく風をなきてうらみよ鶯は我やは花に手だにふれたる

典侍洽子朝臣

ちる花のなくにしとまる物ならば我鶯におとらましやは

仁和の中将のみやす所の家に哥合せんとてしける時によめる

藤原後蔭

花のちる事やわびしき春霞たつたの山の鶯のこゑ

鶯のなくをよめる　そせい

木づたへばおのが羽風にちる花をたれにおほせてここらなくらん

鶯の花の木にてなくをよめる

躬恒

しるしなきねをもなくかな鶯のことしのみちる花ならなくに

題しらず　よみ人しらず

駒なめていざ見にゆかむ故郷は雪とのみこそ花はちるらめ

ちる花をなにかうらみむ世中にわが身もともにあらむ物かは

小野小町

花の色はうつりにけりないたづらにわが身世にふるながめせしまに

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫「古今和歌集」
10060188
26 / 81

Nagoya University Library

仁和の中将のみやす所の家に歌合せ
むとてしける時によめる
そせい
をしと思ふ心はいとによられなむ散花毎にぬきてとゞめん
志賀の山ごえにて女のおほくあへりけるに
よみてつかはしける
つらゆき
あづさ弓春の山べをこえくれば道もさりあへず花ぞちりける
寛平御時きさいの宮の歌合のうた
春の野にわかなつまむとこしものをちりかふ花に道はまどひぬ

山寺にまうでたりけるによめる
やどりして春の山べにねたる夜は夢の内にも花ぞちりける
寛平御時きさいの宮の歌合のうた
吹風と谷の水としなかりせばみ山がくれの花をみましや
しがよりかへりけるをうなどもの花山に入て
藤の花のもとにたちよりてかへりけるに
よみておくりける
僧正遍昭
よそにみてかへらむ人に藤の花はひまつはれよ枝はおるとも
家に藤の花のさけりけるを人のたちとまりて

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
27 / 81

て見けるをよめる

躬恒

我宿にさける藤波たちかへりすきかてにのみ人のみるらん

題しらす　よみ人しらす

今もかもさきにほふらん橘のこしまのさきの山吹の花

春雨ににほへる色もあかなくにかさへなつかし山吹の花

山吹はあやなゝさきそ花見んとうへけん君か（人のイ）こよひこなくに

よし野河のほとりに山吹のさけりけるをよめる

貫之

吉野河岸の山吹ふく風にそこの影さへうつろひにけり

題しらす　よみ人しらす

蛙なく井手の山吹ちりにけり花のさかりにあはまし物を

このうたはある人のいはくたちはなのきよともかうたなり

春の哥とてよめる

そせい

思ふとち春の山へにうちむれてそこともいはぬ旅ねしてしか

躬恒

梓弓春たちしより年月のいるかことくもおもほゆるかな

Nagoya University Library

やまひよりこのてをこそこしらるる
よりとも　　業之

いるとしのきさらぎのはつかの夕
なつひのつくりてるをしるしるる
山ゐより花のちるをよのなかの
ものとはかはしらしとのたまふ　　あつふ

ちりはかはしらしとのたまふ
きさらぎのこのてをこそ
ものとはしらしとのたまふ　　りとうる

寛平御時きさいの宮の歌合の
かすみたちこめたる
やまひのつくりの日
をんなもとをして
うちのつまとしよりてはなのかげ
毎のひの時をりをりの日毎のつくりけり
友のをとをよりてはいとをしけり
なりひらの朝臣

Nagoya University Library

[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]の時[illegible]

[illegible]

古今和歌集巻第三

春歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
30／81

伊勢
五月こはなきもふりなむ郭公またしきほとの声をきかはや
よみ人しらす
さ月まつ花橘のかをかけはむかしの人の袖のかそする
いつのまにさ月きぬらんあしひきの山郭公今そなくなる
けさきなきいまた旅なる郭公花橘にやとはからなん
をとは山をこえける時に郭公のなくをきゝ
てよめる　　とものり
をとは山けさこえくれは郭公こすゑはるかに今そなくなる
郭公のはしめてなきけるをきゝてよめる
そせい
郭公はつこゑきけはあちきなくぬしさたまらぬこひせらるはた
ならのいそのかみてらにて郭公のなくをよめる
いそのかみふるき都の郭公こゑはかりこそむかしなりけれ
題しらす　　よみ人しらす
夏山になく郭公心あらはもの思ふ我にこゑなきかせそ
郭公なくこゑきけはわかれにしふるさとさへそこひしかりける
郭公なかなく里のあまたあれはなをうとまれぬ思ふものから
思ひいつるときはの山の郭公からくれなゐのふりいてゝそなく
こゑはして涙は見えぬ郭公わか衣手のひつをからなん

Nagoya University Library

[illegible]

今文より山へつゝる郭公

みくまのゝ

為さすて山路をこそ[illegible]

寛平御時きさいのみやの歌合のうた

[illegible]

[illegible]

大江千里

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紀貫之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
32-/81

五月雨の空もとゞろに時鳥何をうしとか夜たゞなくらん
さぶらひにておのこどもの酒たうべけるに
めして時鳥待つ歌よめとありければよめる
躬恒
時鳥声も聞えず山びこはほかに鳴く音をこたへやはせぬ
山に時鳥の鳴きけるを聞きてよめる
つらゆき
時鳥人待つ山に鳴くなればわれうちつけに恋まさりけり
はやく住みける所にて時鳥の鳴きけるを
聞きてよめる
忠岑
昔へや今も恋しき時鳥ふるさとにしも鳴きて来つらん
時鳥の鳴きけるを聞きてよめる
みつね
時鳥我とはなしに卯の花の憂き世の中に鳴き渡るらん
はちすの露を見てよめる
僧正遍昭
はちす葉の濁りにしまぬ心もて何かは露を玉とあざむく
月のおもしろかりける夜あかつきがたによめる
深養父
夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月宿るらん
Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188

Nagoya University Library

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今和歌集巻第四

秋歌上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
34 / 81

昨日こそさなへとりしかいつのまにいなはそよきて秋風のふく
秋風の吹にし日より久方のあまのかはらにたゝぬ日はなし
久方のあまの河原のわたしもり君わたりなはかちかくしてよ
天河紅葉を橋にわたせはやたなはたつめの秋をしもまつ
恋ひ恋ひてあふ夜はこよひ天河霧たちわたりあけすもあらなん
寛平御時なぬかの夜うへにさふらふをのこともうたたてまつれと
おほせられける時に人にかはり
てよめる　とものり
天河あさせしら浪たとりつゝわたりはてねはあけそしにける
おなし御時きさいの宮の歌合のうた

藤原おきかせ
契りけん心そつらきたなはたの年にひとたひあふはあふかは
なぬかの日の夜よめる
凡河内みつね
年毎にあふとはすれとたなはたのぬる夜のかすそすくなかりける
たなはたにかしつる糸のうちはへて年のをなかく恋ひやわたらん
題しらす　そせい
こよひこん人にはあはしたなはたのひさしきほとにまちもこそすれ
なぬかの夜のあかつきによめる
源むねゆきの朝臣

今はとて別るゝ時は天の川わたらぬさきに袖そひちぬる

やうかの日よめる　　みふのたゝみね

けふよりは今こむ年のきのふをそいつしかとのみまちわたるへき

題しらす　　よみ人しらす

木のまよりもりくる月のかけみれは心つくしの秋はきにけり

おほかたの秋くるからにわか身こそかなしき物と思ひしりぬれ

わかためにくる秋にしもあらなくに虫のねきけはまつそかなしき

物ことに秋そかなしきもみちつゝうつろひゆくをかきりと思へは

ひとりぬる床は草葉にあらねとも秋くるよひは露けかりけり

これさたのみこの家の歌合のうた

いつはとは時はわかねと秋のよそ物思ふ事のかきりなりける

かみなりのつほに人々あつまりて秋のよおしむ

うたよみけるついてによめる

躬恒

かくはかりおしと思ふよをいたつらにねてあかすらむ人さへそうき

題しらす　　よみ人しらす

白雲にはねうちかはしとふ雁のかすさへみゆる秋のよの月

さ夜中とよはふけぬらし雁かねのきこゆる空に月わたるみゆ

是貞のみこの家の歌合によめる

大江千里

是貞のみこの家の歌合によめる　たゝみね

久方の月の桂も秋はなほ紅葉すればやてりまさるらん

月をよめる　在原元方

秋の夜の月の光しあかければくらぶの山もこえぬべらなり

人のもとにまかれりける夜きりぎりすのなきけるをきゝてよめる　藤原たゝふさ

蛬いたくな鳴きそ秋の夜のながき思ひは我ぞまされる

是貞のみこの家の歌合のうた　としゆきの朝臣

秋の夜のあくるもしらず鳴く虫はわがごと物やかなしかるらん

題しらず　読人しらず

秋萩も色づきぬれば蛬我がねぬごとや夜はかなしき

秋の夜は露こそことに寒からし草むらごとに虫のわぶれば

君しのぶ草にやつるゝ古郷は松虫の音ぞかなしかりける

秋の野に道もまどひぬ松虫の声する方に宿やからまし

秋の野に人松虫の声すなり我かとゆきていざとぶらはん

紅葉のちりてつもれる我宿に誰を松虫こゝら鳴くらん

蜩の鳴きつるなへに日はくれぬと思ふは山の陰にぞありける

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵：神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
37 / 81

Nagoya University Library

いとゝ春山里のつれづれとしのびがたきあるに

なりにしあるに

住吉にて

住吉のけしきはいとゝ春めきたるに

光貞のみこの家の歌合のうた

こもりくと

はつせの河はいとゝ春めきたるに

ふる人へとて

ふる人へとてはつせの河はいとゝ春めきたるに

ふるしらなみのたちかへりつゝ

ふるしらなみのたちかへりつゝ

春歌たてまつりける

春歌たてまつりけるに

ながめつゝ

ながめつゝ

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

為家卿

為家卿

ちはやぶる

ちはやぶる

うの花のしらなみ

うの花のしらなみ

ひとつ

ひとつ

光貞のみこの家の歌合のうた

光貞のみこの家の歌合のうた

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
38／81

たゞみね

山里は秋こそことにわびしけれ鹿のなくねにめをさましつゝ

読人しらず

おく山にもみぢふみわけなく鹿のこゑきく時ぞ秋はかなしき

秋はぎにうらびれをればあしひきの山下とよみ鹿のなくらん

秋萩をしがらみふせてなく鹿のめには見えずておとのさやけさ

これさだのみこの家の歌合によめる

藤原としゆきの朝臣

秋萩の花さきにけり高砂のおのへの鹿はいまやなくらん

むかしあひしりて侍ける人の秋の野にあひて

物語しけるついでによめる

躬恒

秋萩のふるえにさける花みればもとの心はわすれざりけり

題しらず　　よみ人しらず

秋萩の下葉色づく今よりやひとりある人のいねがてにする

なきわたる雁の涙やおちつらん物思ふやどの萩のうへの露

萩の露玉にぬかんととればけぬよし見む人は枝ながらみよ

ある人のいはくこの哥はならのみかどの御哥なりと

折てみばおちぞしぬべき秋萩の枝もたわゝにをける白露

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」

Nagoya University Library

萩か花ちるらんをのの露霜にぬれてをゆかむさよはふくとも

是貞のみこの家の哥合によめる

文屋あさやす

秋の野におく白露は玉なれやつらぬきかくるくものいとすち

僧正遍昭

名にめてておれるはかりそ女郎花我おちにきと人にかたるな

僧正遍昭かもとにならへまかりける時に男山にて女郎花を見てよめる

ふるのいまみち

女郎花うしと見つつそゆきすくる男山にしたてりとおもへは

是貞のみこの家の哥合のうた

としゆきの朝臣

秋ののにやとりはすへし女郎花名をむつましみ旅ならなくに

をののよしき

女郎花おほかる野へにやとりせはあやなくあたの名をやたちなん

朱雀院の女郎花あはせによみてたてまつりける

左のおほいまうちきみ

女郎花秋の野風にうちなひき心ひとつをたれによすらん

藤原定方朝臣

秋ならてあふことかたき女郎花あまのかはらにおひぬものゆへ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
40 / 81

貫之

たか秋にあらぬ物ゆへ女郎花なそいろにいてゝまたきうつろふ

みつね

妻こふる鹿そなくなる女郎花をのかすむ野の花としらすや

女郎花吹すきてくる秋風はめには見えねと香こそしるけれ

たゝみね

人の見ることやくるしき女郎花秋霧にのみたちかくるらん

独のみなかむるよりは女郎花わかすむ宿にうへて見ましを

物へまかりけるに人の家に女郎花うへたりけるを見てよめる

兼覧王

女郎花うしろめたくも見ゆる哉あれたるやとにひとりたてれは

寛平御時蔵人所のをのこともさかのに花見んとてまかりたりける時かへるとてみな哥よみけるついてによめる

平さたふん

花にあかてなにかへるらん女郎花おほかる野へにねなましものを

是貞のみこの家の哥合によめる

としゆきの朝臣

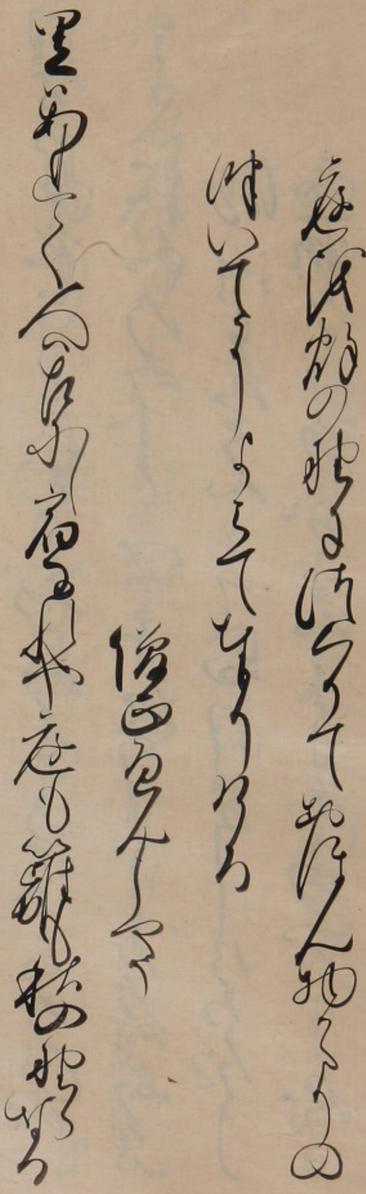
なに人かきてぬきかけしふちはかまくる秋ことに野へをにほはす

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫「古今和歌集」
10060188
41 / 81

ふちはかまをよみて人につかはしける
つらゆき
やとりせし人のかたみかふちはかまわすられかたき
香に匂ひつゝ
そせい
ぬししらぬ香こそ匂へれ秋の野にたかぬきかけし藤はかま
そも　　平貞文
今よりは植ゑてたにみし花すゝきほにいつる秋はわひしかりけり
寛平御時きさいの宮の歌合のうた
ありはらのむねやな
秋の野の草のたもとか花すゝきほにいてゝまねく袖とみゆらん
我のみや哀と思はんきり〳〵すなく夕かけのやまとなてしこ
素性法師
題しらす　　よみ人しらす
みとりなるひとつ草とそ春はみし秋はいろ〳〵の花にそありける
百草の花のひもとく秋の野に思ひたはれん人なとかめそ
月草に衣はすらん朝露にぬれてのゝちはうつろひぬとも
仁和のみかとみこにおましましける時ふるの
瀧御らんしにおはしましけるみちに
遍昭かはゝの家にやとりたまへりける時に

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
42 / 81

Nagoya University Library



古今和歌集巻第五

秋歌下

紅葉のみこの字合の字

文屋やすひで

[illegible]

[illegible]

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
43 / 81

霧たちて雁そなくなる片岡のあしたの原はもみちしぬらん
神な月時雨もいまたふらなくにかねてうつろふ神なひの森
千早ふる神なひ山のもみちはに思ひはかけしうつろふものを
貞観の御時綾綺殿のまへに梅の木
ありけりにしのかたにさせりけるえたのもみちはしめ
たりけるをうへにさふらふをのことものよみけるついて
によめる
藤原かちおむ
おなし枝をわきて木のはのうつろふは西こそ秋のはしめなりけれ
いし山にまうてける時おとは山のもみちを見て
よめる　貫之
秋風の吹にし日より音羽山峯のこすゑも色つきにけり
これさたのみこの家の哥合によめる
としゆきの朝臣
白露の色はひとつをいかにして秋のこのはをちゝにそむらん
壬生忠岑
秋の夜の露をは露とおきなから雁の涙や野へをそむらん
題しらす　読人しらす
秋の露色〳〵ことにおけはこそ山のこのはのちくさなるらめ

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
『古今和歌集』
10060188
45／81

よみ人しらず

秋霧はけさはなたちそさほ山の
ははそのもみちよそにても見む

坂上是則

さほ山のははそのいろはうすけれと
秋はふかくもなりにける哉

人のせんさいにきくにむすひつけてうゑける哥

在原業平朝臣

うゑしうゑは秋なき時やさかさらん花こそちらめねさへかれめや

寛平御時きくの花をよませ給うける

としゆきの朝臣

久方の雲のうへにて見る菊はあまつほしとそあやまたれける

このうたはまた殿上ゆるされさりける時にめしあけられてつかうまつれるとなん

是貞のみこの家の哥合のうた

きのとものり

露なからをりてかささん菊の花老せぬ秋のひさしかるへく

寛平御時きさいの宮の哥合のうた

大江千里

うゑし時花まちとほにありしきくうつろふ秋にあはんとや見し

おなし御時せられけるきくあはせにすはまをつくりて菊の花うゑたりけるにくはへたりける哥

つくりて菊の花うへたりけるにくはへたりけるうた
ふきあけのはまのかたにきくうへたりけるに
よめる　　すかはらの朝臣
秋風のふきあけにたてる白菊は花かあらぬか浪のよするか
仙宮に菊をわけて人のいたれるかたをよ
める　　素性法師
ぬれてほす山ちの菊の露のまにいつかちとせを我はへにけむ
菊の花のもとにて人の人まてるかたを
よめる　　とものり
花見つゝ人まつ時はしろたへの袖かとのみそあやまたれける

おほさはの池のかたに菊うへたるをよめる
ひともとゝ思ひし菊をおほさはの池のそこにもたれかうへけむ
世中のはかなき事を思ひけるおりに菊の
花をみてよめる　　つらゆき
秋の菊にほふかきりはかさしてむ花よりさきとしらぬわか身を
しらきくの花をよめる
凡河内躬恒
心あてにおらはやおらむ初霜のおきまとはせる白菊の花
これさたのみこの家の哥合のうた
よみ人しらす

色かはる秋の菊をは一とせに二たひにほふ花とこそみれ

仁和寺にきくの花めしけるにうたそへてたてまつれと

おほせられけれはよみてたてまつりける

平さたふん

秋をおきて時こそありけれ菊の花うつろふからに色のまされは

人の家なりける菊の花をうつしうへたりけるを

よめる　つらゆき

咲そめし宿しかはれは菊の花色さへにこそうつろひにけれ

題しらす　よみ人しらす

さほ山の柞のもみちちりぬへみよるさへみよとてらす月影

宮つかへひさしくつかうまつらて山さとにこもり侍けるに

よめる　藤原関雄

おく山の岩かき紅葉ちりぬへし照日のひかりみる時なくて

題しらす　読人しらす

龍田川紅葉みたれてなかるめりわたらは錦中やたえなん

此うたはある人ならのみかとの御哥也となん申

龍田川紅葉はなかる神なひのみむろの山に時雨ふるらし

又はあすか川もみちはなかる

恋しくはみても忍はんもみちはを吹なちらしそ山おろしの風

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
48 / 81

秋風にあへすちりぬるもみちはのゆくへさためぬ我そかなしき
秋はきぬ紅葉はやとにふりしきぬ道ふみわけてとふ人はなし
ふみわけてさらにやとはむ紅葉のふりかくしてし道とみなから
秋の月山へさやかにてらせるはおつるもみちのかすをみよとか
吹風の色のちくさにみえつるは秋のこのはのちれはなりけり
せきを
霜のたてつゆのぬきこそよわからし山のにしきのおれはかつちる
うりんゐんの木のかけにたゝすみて
よみける
僧正遍昭
侘人のわきてたちよるこのもとはたのむかけなく紅葉ちりけり

二条のきさきの春宮のみやすん所と申ける時に御
屏風に龍田河に紅葉なかれたるかたをかけりける
を題にてよめる
そせい
紅葉のなかれてとまるみなとにはくれなゐふかきなみやたつらん
なりひらの朝臣
ちはやふる神代もきかす龍田河からくれなゐに水くゝるとは
これさたのみこの家の哥合のうた
としゆきの朝臣
わかきつるかたもしられすくらふ山木々のこのはのちるとまかふに

たゝみね
神なひのみむろの山を秋ゆけは錦たちきる心ちこそすれ
北山にもみちおらむとてまかれりける
時によめる　　つらゆき
見る人もなくてちりぬるおく山のもみちはよるの錦なりけり
秋のうた　　かねみのおほきみ
龍田ひめたむくる神のあれはこそ秋のこのはのぬさとちるらめ
をのといふ所にすみ侍りける時もみちを見てよめる
つらゆき
秋の山もみちをぬさとたむくれはすむ我さへそ旅心ちする
神なひの山をすきて龍田河をわたりける
時にもみちのなかれけるをよめる
きよはらのふかやふ
神なひの山をすきゆく秋なれは龍田河にそぬさはたむくる
寛平御時きさいの宮の哥合のうた
藤原おきかせ
白浪に秋のこのはのうかへるをあまのなかせる舟かとそみる
龍田河のほとりにてよめる
坂上是則
もみちはのなかれさりせは龍田河水の秋をはたれかしらまし

Nagoya University Library

三かうの山ぶしてあり

なみたのつゆ

川風のさえかさつゝ夜ふけぬる秋のなかばのあけぼの

秋歌

秋ちかくなりぬるかぜのすゝしきにあさ露ぬれて

高砂の松の下川流れたる

人の家のちかきまをひとつ

かたそらにもりひらてつゝ

てけふ

三こまわみそぎ川人の家の前を流れて水清き

ながれのみてこの秋の月今のうち

やそしま

當時おもふ為にあらぬ秋なれどこゝろ

さびしき

流れ人なりて

なにはの浦の山の端の月の

なかれ

なにはの浦の山の端の月の

ながれ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
51 / 81

Nagoya University Library

寛平御時ちうしきの日

きれし紅葉の門みちもなくつ

ちはしめしをよりけり

みつをの

みつをの山の山ぶきの花の色と

花のをりかはりをしつゝ

よりて

つゆ

年毎に長谷寺に詣でゝ

五月のはつかの日長谷に

月見に参りたりしに

菊の花のうつろひたる

菊の花のうつろひたる

なをうとくもゆるかな

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
52 / 81

古今和歌集巻第六

冬歌

題しらす　よみ人しらす

竜田川にしきおりかく神無月しくれのあめをたてぬきにして

冬のうたとてよめる

源宗于朝臣

山さとは冬そさひしさまさりける人めもくさもかれぬと思へは

題しらす　よみ人しらす

大空の月のひかりしきよけれはかけみし水そまつこほりける

ゆふされは衣手さむしみよしのゝよしのゝ山にみゆきふるらし

今よりはつきてふらなむわかやとのすゝきをしなみふれるしら雪

ふるゆきはかつそけぬらしあしひきの山のたきつせおとまさるなり

この川にもみちはなかるおく山のゆきけの水そいままさるらし

ふるさとはよしのゝ山しちかけれはひと日もみゆきふらぬ日はなし

わかやとは雪ふりしきてみちもなしふみわけてとふ人しなけれは

冬のうたとてよめる

紀貫之

ゆきふれは冬こもりせるくさも木も春にしられぬ花そさきける

しかの山こえにてよめる

紀あきみね

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
53 / 81

白雪のところもわかすふりしけは岩ほにもさく花とこそ見れ

ならの京にまかれりける時にやとれりける
ところにてよめる　坂上これのり

みよしのゝ山の白雪つもるらしふるさとさむく成まさる也

寛平御時きさいの宮の哥合のうた
ふちはらのおきかせ

浦ちかくふりくる雪は白浪の末の松山こすかとそ見る

壬生忠岑

みよしのゝ山の白雪ふみわけて入にし人のおとつれもせぬ

白雪のふりてつもれる山里はすむ人さへや思ひきゆらん

雪のふれるを見てよめる
凡河内躬恒

雪ふりて人もかよはぬ道なれやあとはかもなく思ひきゆらん

雪のふりけるをよみける
きよはらのふかやふ

冬なから空より花のちりくるは雲のあなたは春にやあるらん

雪の木にふりかゝれりけるをよめる
貫之

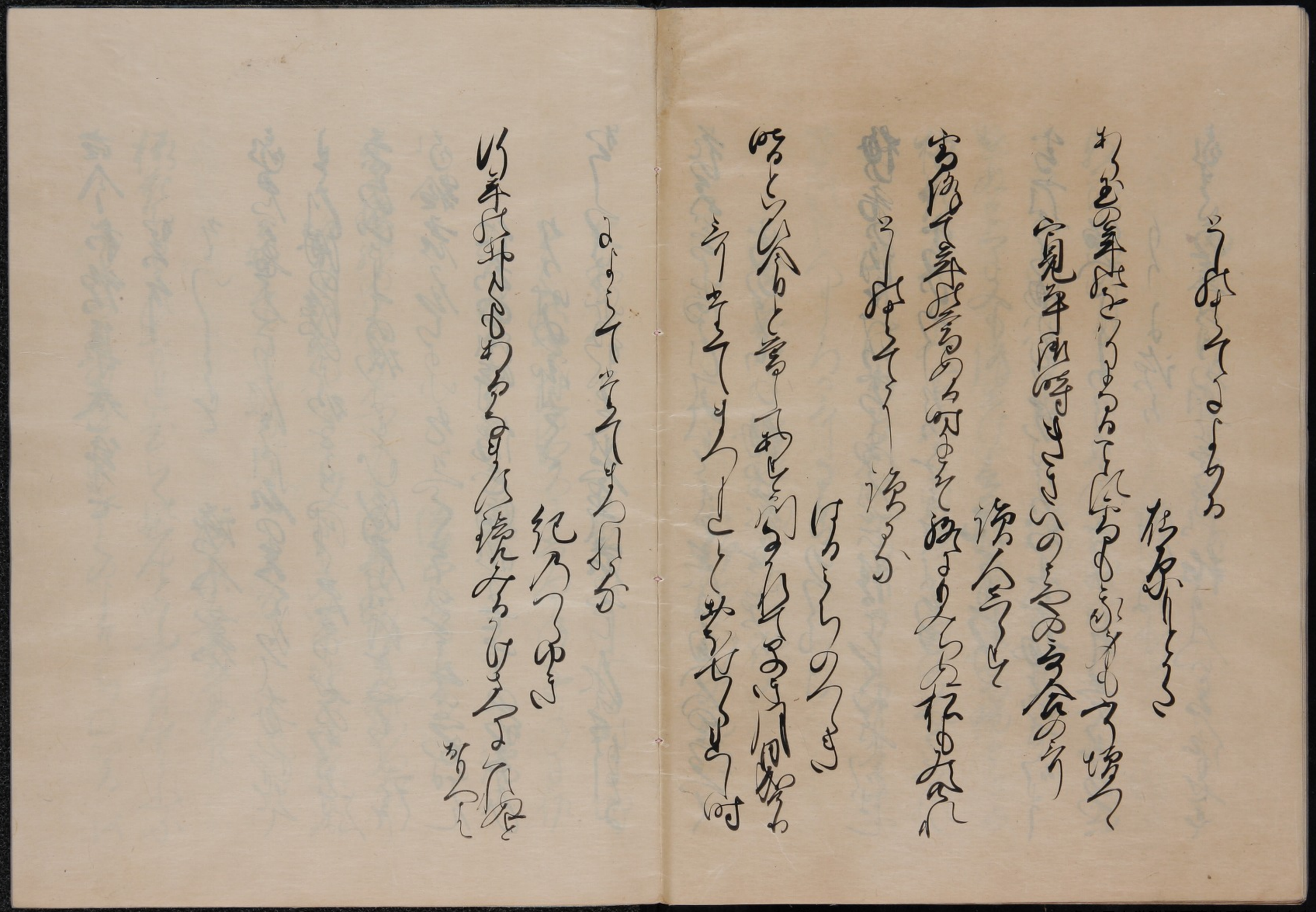
冬こもり思ひかけぬを木のまより花と見るまて雪そふりける

やまとのくにゝまかれりける時に雪の

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
54 / 81

ふりけるを見てよめる
坂上これのり
朝ほらけ有明の月とみるまてに吉野の里にふれる白雪
題しらす　よみ人しらす
けぬかうへに又もふりしけ春霞たちなはみ雪まれにこそみめ
梅花それとも見えす久かたのあまきる雪のなへてふれゝは
この歌はある人のいはく柿本の人まろかなり
梅の花に雪のふれるをよめる
小野たかむらの朝臣
花の色は雪にましりて見えすとも香をたににほへ人のしるへく
雪のうちの梅の花をよめる
きのつらゆき
梅のかのふりをける雪にうつりせは誰かことことわきておらまし
雪のふりけるを見てよめる
紀とものり
雪ふれは木ことに花そさきにけるいつれを梅とわきておらまし
物へまかりける人をまちてしはすのつこも
りによめる　みつね
わかまたぬ年はきぬれと冬草のかれにし人は音つれもせす
Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
55 / 81

Nagoya University Library



名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
56 / 81

古今和歌集巻第七

賀哥

題しらす　よみ人しらす

わか君は千代に八千代にさゝれ石のいはほとなりてこけのむすまて

わたつ海の浜のまさこをかそへつゝ君か千とせのありかすにせむ

しほの山さしての磯にすむ千とり君かみ代をは八千代とそなく

我齢君か八千代にとりそへてとゝめおきては思ひ出にせよ

仁和の御時僧正遍昭に七十の賀たまひける時の御哥

かくしつゝとにもかくにもなからへて君かやちよにあふよしもかな

仁和のみかとみこにおましましける時に御
をはの八十の賀にしろかねをつゑにつくれりけるを見て
かの御をはにかはりてよみける

僧正遍昭

ちはやふる神やきりけむつくからに千とせの坂も
こえぬへらなり

堀川のおほいまうちきみの四十賀九条の家にて
しける時によめる

在原業平朝臣

桜花ちりかひくもれおいらくのこむといふなる
道まかふかに

Nagoya University Library

大みそかの日よめる

きのとしみる

春の山の霞をとこそ春風の吹くや春の初めなる

きさらぎのみこのさくらの花の歌たてまつりける時に屏風にさくらの花ちらすかたをかきてよめる

藤原のおきなぶ

春ごとの花のさかりに逢て見てをれる人の春まちがほなる

きのつらゆき

梅の花ぬしなしにしてにほひのみ春を忘れぬ人に見せばや

素性法師

ながめつる今日の春雨ふるごとに花なき里の人ぞ恋しき

なかのこ芳子

春ごとに花のさかりはあれど秋の月にしくものはなしと思へば

在原なりけるが

春の夜の闇はあやなし梅の花色こそみえねかやはかくるる

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
58/81

むすめにかはりてよみ侍りける

そせい法し

万代を松にそ君をいはひつる千年のかけにすまむと思へは

内侍のかみの右大将藤原の朝臣の四十賀しける時に四季のゑかけるうしろの屏風に

かきたりけるうた

春

春日野にわかな摘つゝ万代をいはふ心は神そしるらん

山たかみ雲ゐに見ゆるさくら花心のゆきてをらぬ日そなき

夏

めつらしき声ならなくに郭公ここらの年をあかすもあるかな

秋

住の江の松を秋風吹からに声うちそふるおきつしら浪

千鳥なくさほの河霧たちぬらし山の木の葉も色まさりゆく

秋くれと色もかはらぬときは山よその紅葉を風そかしける

冬

白雪のふりしく時はみよしのゝ山下風に花そちりける

春宮のむまれ給へりける時にまゐりてよめる

典侍藤原よるかの朝臣

峰たかき春日の山にいつる日はくもる時なくてらすへらなり

Nagoya University Library

亨和歌集巻第八

離別部

須磨にて

在原行平朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
60／81

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
61／81

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
62／81

白雲のこなたかなたに立別心をぬさとくたく旅哉
みちのくへまかりける人によみてつか
はしける　つらゆき
白雲のやへにかさなるをちにても思はむ人に心へたつな
人をわかれける時によみける
別てふ事は色にもあらなくに心にしみてわひしかるらん
あひしれりける人のこしのくにゝまかりて
年へて京にまうてきて又かへりける時に
よめる　凡河内躬恒
かへる山なにそはありてあるかひはきてもとまらぬ名にこそ有けれ
越のくにへまかりける人によみてつかはしける
よそにのみ恋やわたらん白山の雪みるへくもあらぬわか身は
おとは山のほとりにて人を別るとてよめる
貫之
音羽山こたかくなきて郭公君か別をおしむへらなり
藤原ののちかけからもののつかひになか
月のつこもりかたにまかりけるにうへの
をのこともさけたうひけるついてによめる
ふちはらのかねもち
もろともになきてとゝめよ蟋蟀秋の別はおしくやはあらぬ

平もとのり

秋きりのともにたちいてゝわかれなははれぬおもひにこひやわたらむ

源のさねかつくしへゆあみむとてまかりける時に山さきにてわかれをしみける所にてよめる

しろめ

いのちたに心にかなふものならはなにかわかれのかなしからまし

山さきより神なひのもりまておくりに人々まかりてかへりかてにしてわかれをしみけるによめる

源さね

人やりのみちならなくにおほかたはいきうしといひていさかへりなむ

今はこれよりかへりねとさねかいひけるをりによめる

藤原かねもち

したはれてきにし心の身にしあれはかへるさまには道もしられす

藤原のこれをかゝむさしのすけにまかりける時におくりにあふさかをこゆとてよみける

つらゆき

かつこえてわかれもゆくかあふさかは人たのめなる名にこそありけれ

おほえのちふるかこしへまかりけるむまのはなむけによめる

藤原かねすけの朝臣

君か行越の白山しらねとも雪のまに〳〵跡はたつねん

人の花山にまうてきて夕さりつかたかへり
なんとしける時によめる

僧正遍昭

夕暮のまかきは山とみえなゝん夜はこえしとやとりとるへく

山にのほりてかへりまうてきて人〳〵わかれ
けるついてによめる

幽仙法師

別をは山のさくらにまかせてんとめんとめしは花のまに〳〵

うりん院のみこの舎利会に山にのほり
てかへるとてさくらの花のもとにてよめる

僧正遍昭

山かせにさくらふきまきみたれなん花のまきれに立とまるへく

幽仙法師

ことならは君とまるへくにほはなんかへすは花のうきにやはあらぬ

仁和のみかとみこにおはしましける時
ふるのたき御覧しにおはしましてかへり
たまひけるによめる

兼藝法師

あかすして別るゝ涙たきにそふ水まさるとやしもはみゆらん

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
65 / 81

みなりのつほにめしたりける日おほみきなと
たうへて雨のいたくふりけれは夕さりまて
侍てまかりいてける折にさかつきを
とりて　つらゆき
秋萩の花をは雨にぬらせとも君をはましてをしとこそ思へ
とよみけれはかへし
兼覧王
惜むらん人の心をしらぬまに秋の時雨と身そふりにける
かねみのおほきみにはしめて物かたりし
てわかれける時によめる
躬恒
別るとうれしくもあるかこよひよりあひ見ぬさきに何をこひまし
題しらす　読人しらす
あかすして別るゝ袖の白玉を君かかたみとつゝみてそ行
限なく思ふ涙にそほちぬる袖はかはかしあはん日まてに
かきくらしことはふらなん春雨にぬれきぬきせて君をとゝめん
しひてゆく人をとゝめん桜花いつれを道とまとふまてちれ
しかの山こえにて石井のもとにて物いひける
人のわかれける折によめる
つらゆき

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
67 / 81

古今和歌集巻第十九

羇旅歌

安倍仲麿

唐土にて月を見て詠める

もろこしにてかの月を見てよめる

あまの原ふりさけみれば春日なる
三笠の山にいでし月かも

なかつきの月をよめる

天の原ふりさけみれば
こゝのへにいでし月かも

たちてゆきてかの国にて

めいしうといふ所のうみへにてかのくにの
人むまのはなむけしけりよるになりて
月のいとおもしろくさしいてたりけるを
みてよめるとなむかたりつたふる

おきのくにゝなかされける時に舟にのりて
いてたつとて京なる人のもとにつかはし
ける
小野たかむらの朝臣

わたの原やそしまかけて漕出ぬと人にはつけよあまのつり舟

題しらす
読人しらす

都出て今日みかの原いつみ川川風さむし衣かせ山

ほの〴〵とあかしの浦の朝霧に嶋かくれ行舟をしそ思ふ
此哥はある人のいはく柿本の人まろか哥也

あつまの方へともとする人ひとりふたりいさなひて
いきけりみかはの国八橋といふ所にいたれりけるに
その川のほとりにかきつはたいとおもしろく
さけりけるをみて木の陰におりゐて
杜若といふいつもしを句のかしらにすへて
たひの心をよまんとてよめる
在原業平朝臣

から衣きつゝなれにしつましあれははる〳〵きぬるたひをしそ思ふ

Nagoya University Library

題しらず　よみ人しらず

題

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
69 / 81

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
70 / 81

Nagoya University Library

あるの門とうまるよ世のて
さけるとのこけるついてよみそのひらく
ゐてあるの門あるいらとゐ海る
そさの門いさもとひけるのあるる
わるる言はよ海乃
みそはやもるとと
とてわはとけるおそてある
一せるつ海るとるすて石ひあるる

朱雀院のうるるおつりゐ河よそ場
乃ゐるそよ紙

ひとりのあるる
ひひるるる海るるる和ふく
嘉祥三年
あるつ見紙ゐるつ嘉ゐあるる

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
71／81

Nagoya University Library

古今和歌集巻第十

物名

藤原ときはの朝臣

つゝ井筒ゐのもとにてくらべこしたけのほどをもすぎにけるかな

なにはづにて

ふるゆきとみるまでなるはなのかをあたらしきとしのはじめとし

ふるとしに春たちけるを

ふるゆきのみのしろたへにまがへるはいなにぞとしのはじめなりける

春の歌

源のさねあきら

わがやどのはなたちばなをみるたびにまちしときなくなくぞこひしき

ゆきのうちに

うぐひすのこゑをたにもきかぬかなこのしたにのみこもりてのみ

ゆきのうちに

ゆきのうちにはるをしるかとうぐひすのこゑをたにもきかぬかな

ゆきのうちに

ゆきのうちにはるをしるかとうぐひすのこゑをたにもきかぬかな

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
72 / 81

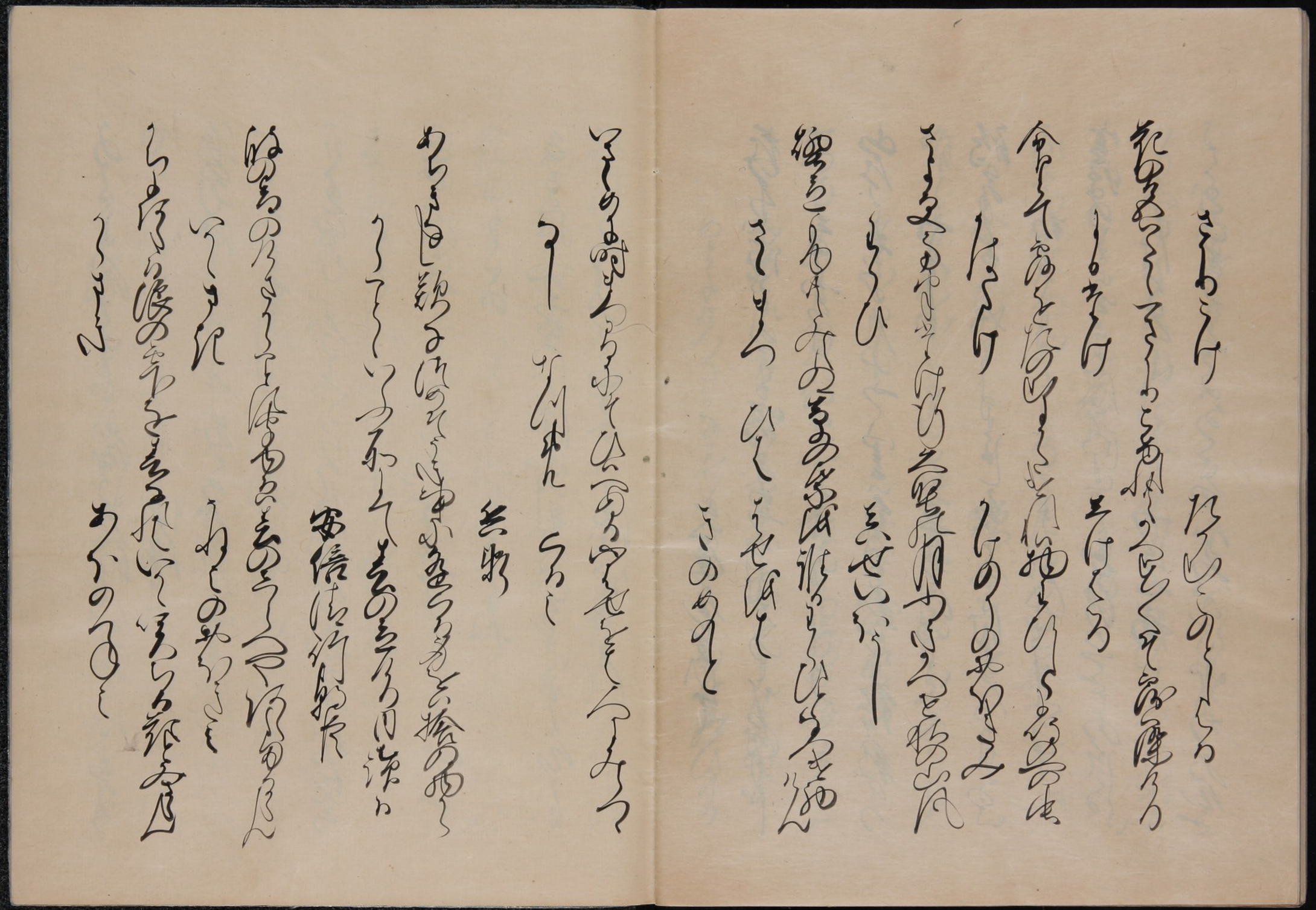
Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
73／81

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
74 / 81

Nagoya University Library



名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
75 / 81

Nagoya University Library

伊勢

つゆ

つゆ

源

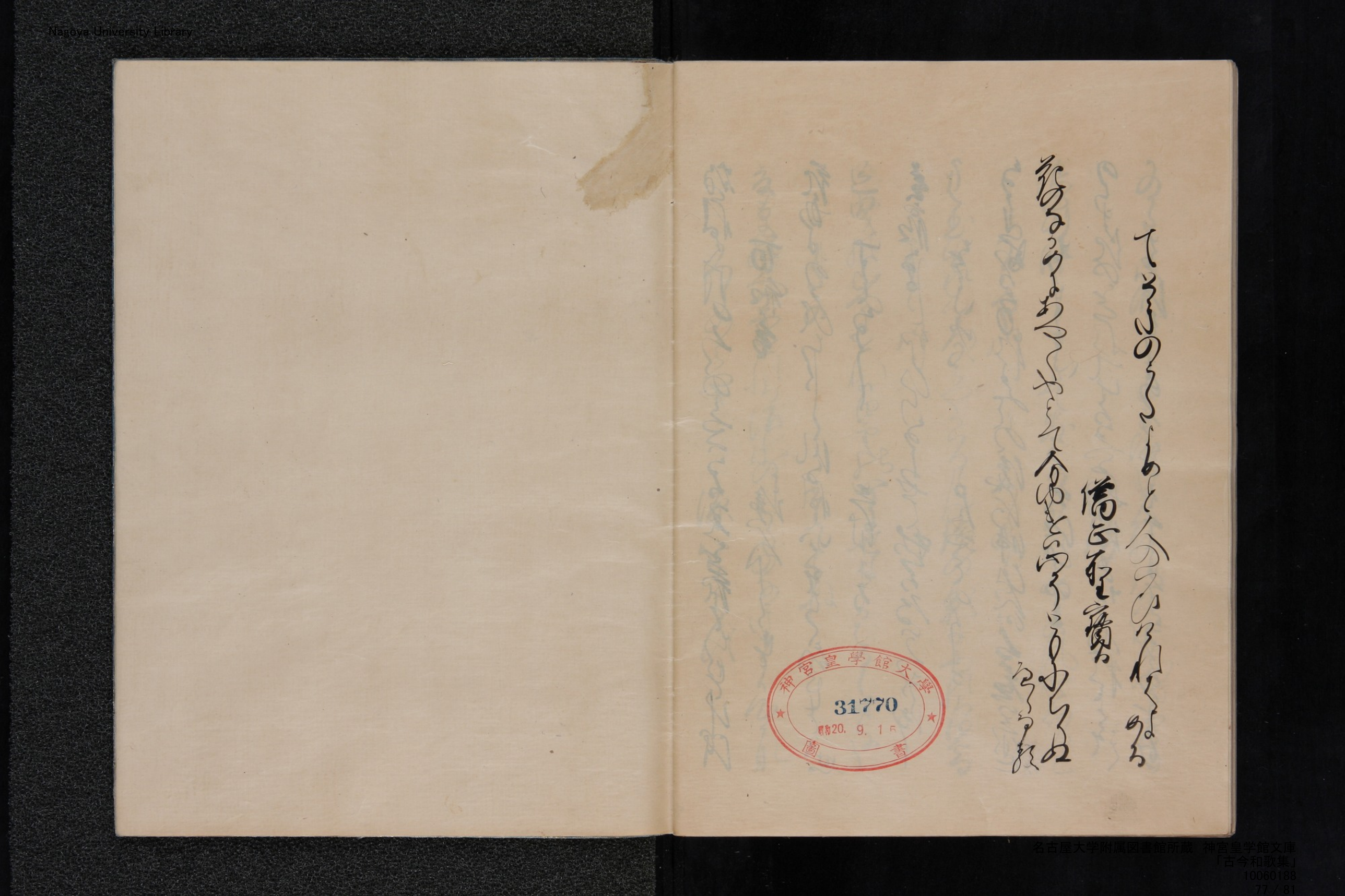
百和香

源

大江千里

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
76／81

Nagoya University Library



神宮皇學館大學
31770
昭和20. 9. 15
圖書

名古屋大学附属図書館所蔵 神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
77 / 81

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
78 / 81

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
79 / 81

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
80 / 81

Nagoya University Library

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「古今和歌集」
10060188
81 / 81